

GINGA REPORT 401

No. 103
2023.12

そらんぽ四日市 検索

発行日：令和5年12月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

12月の星空

星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

ベテルギウスとリゲル

12月15日21時の星図

天上を流れる大河

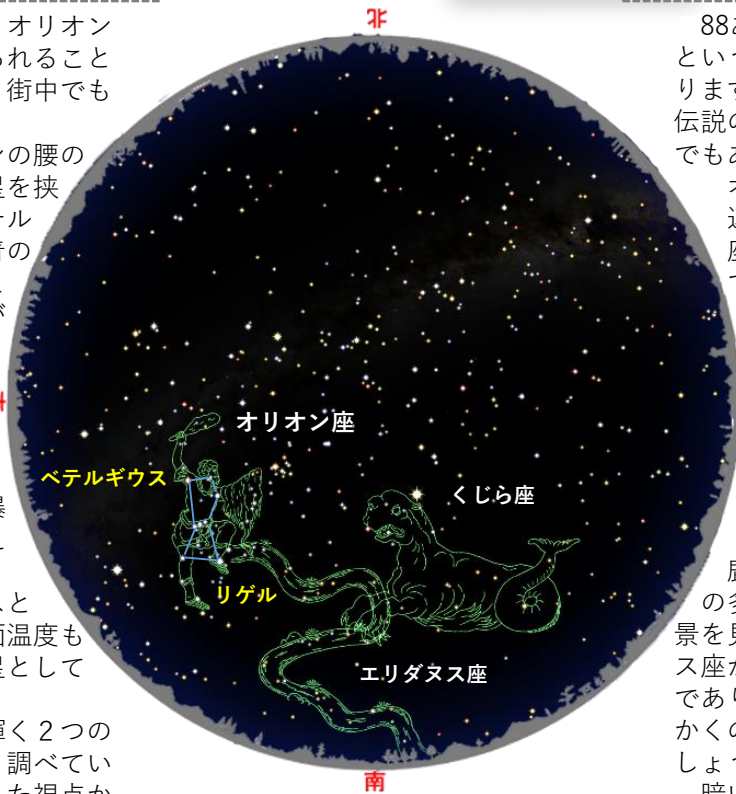
冬の星座で目につくのが、オリオン座です。リボンや鼓に例えられることもある星の並びが特徴的で、街中でも簡単に見つけられます。

特に目立つのは、オリオンの腰のあたりに3つ並んだ、三ツ星を挟んで輝く2つの一等星、ベテルギウスとリゲルです。赤と青の対照的な色で輝いており、この色の違いは星の表面温度が関係しています。

ベテルギウスは年老いた星のため、大きく膨らみ、表面の温度が下がっています。また天文学的な時間で、そう遠くない将来、超新星爆発と呼ばれる星の寿命を迎えると考えられています。

一方リゲルはベテルギウスと正反対の若々しい星で、表面温度も1万度を超え、青白く輝く星として見えています。

形の整ったオリオン座で輝く2つの一等星の違いに注目し、深く調べていくと、またオリオン座を違った視点から楽しむことができそうです。



88ある星座の中にはエリダヌス座という、あまり聞きなれない星座があります。エリダヌス座のエリダヌスは伝説の川の名前であり、川の神の名前でもあります。

オリオン座とくじら座に挟まれた辺りに散在する星々をまとめた星座で、その成立はギリシャ時代ではないかと言われています。

エリダヌス川は、オリオン座の足下に輝く一等星リゲルのすぐ近くに源を発し、西へ東へと蛇行を繰り返しながら、淡い星々を点々とつらね、川の南の果てに輝く一等星アケルナルまで流れ下っています。

このアケルナルが見えるのは、鹿児島より南の地域のため、日本の多くの地域ではエリダヌス座の全景を見ることはできません。エリダヌス座が全天で6番目の広さを持つ星座でありながら知名度が低いのは、せっかくの一等星が隠れているのも一因でしょうか。

暗い場所でじっくりと眺め、広大な川の姿を想像してみましょ。

今月の天文トピック

ふたご座流星群

2023年12月15日前後で、ふたご座流星群の活動が活発な状況となるのが予想されます。13日が新月であることから月明かりの影響もなく、特に14日夜から15日明け方にかけては、多くの流星を観測できそうです。

流星は放射点と呼ばれる空の一点を中心に放射状に出現しますが、その付近だけではなく、どちらの方向にも現れますので、なるべく空の広い範囲を見渡すと良いでしょう。ふたご座流星群は明るい流星が多く、流星が空から降ってくる様子を観測できる絶好のチャンスです。今年最後の流星群、寒さ対策をしっかりと観測に出かけてみるのもいいかもしれません。

天文ボランティア工房

そらん砲をうってみよう

毎月第四日曜日には、天文ボランティアが工作教室を行っています。どなたでもご参加いただくことのできる簡単な工作です。

今月はペットボトルと風船を使って空気銃を作ります。そらん砲を作り、的あてゲームで遊んでみましょう。



日時：12月24日（日）

10：30～11：30

場所：5階 コズミックラウンジ

料金：無料

博物館主催 スターウォッチング

博物館主催観望会

場所：伊坂ダムサイクルパーク管理事務所付近
◇12月14日（木）19：00～21：00「ふたご座流星群観望会」

博物館主催きらら号観望会



場所：博物館前市民公園
◇12月23日（土）18：00～19：30「月・木・土星を見よう」



編集後記

冬の夜空で注目してもらいたいのは、やはりオリオン座です。オリオン座の中央付近には2等の星が3つ並んでいて、これらを三ツ星と言います。またオリオンのちょうど腰の辺りで綺麗に並んでいる様子が、まるでベルトのようにみえるので、オリオンのベルトとも言われています。全天でも屈指の美しい星座を一年の終わりに探してみたいかがでしょうか。

12月の月

- 5日  下弦
- 13日  新月
- 20日  上弦
- 27日  満月

※申し込み不要、参加無料、天候不良時は中止。
※参加者が多い場合は受付を制限することがあります。
※天候不良等による実施判断は、開始時刻の3時間前に当館ホームページ及びFacebookで発信します。